

## 〔研究ノート〕

### 流通科学部「グローバルリンクプロジェクト」調査報告

#### Report on Global Link Project at Faculty of Business, Marketing and Distribution

中村学園大学 流通科学部

池田 祐子

#### 〔概要〕

流通科学部のプロジェクト研究「グローバル人材育成のための先進的事例の調査研究ならびに教育現場への還元」（2019年度～2020年度）では、「世界に貢献することのできる主体となるためのグローバル化の取組」を推進するための研究を行う。本プロジェクトの「グローバル・エデュケーション」部門では、海外の教育研究機関との連携を強化し、国内外の先進的事例の

収集・実地調査を行い、研究成果を教育現場に還元するための実践的な方法を見出すことを目的としている。2019年度、流通科学部では学部の特性を活かした新規海外研修（短期）の実施を目指し、海外の大学において学生がアクティブ・ラーニングを行う「グローバルリンクプロジェクト」を立ち上げた。

本プロジェクトの概要は以下のとおりである。

1. 目的	このプログラムは、流通科学部が教育目標として掲げるグローバル人材育成を目指し、協定校であるグアム大学（UOG）において3週間の現地英語研修及びフィールドワークを実施するものである。福岡とグアムについて調査・研究を行い、「両地域をリンクするための交流促進案」を広義の流通の視点で捉えて提案するアクティブラーニング型研修プログラムである。
2. 派遣国	アメリカ合衆国準州グアム
3. 研修先	グアム大学
4. 参加人員	11名
5. 渡航期間	2019年8月9日（金）から8月31日（土）までの23日間
6. 参加費	31万円程度 <渡航費、宿泊費、大型バス代、旅行保険加入費含む> ※パスポート申請費用、現地研修中にかかる個人的な経費、海外でも利用可能な携帯電話の費用等は参加費には含まれない。
7. 単位認定	海外研修、グローバルプロジェクトなどの科目において認定を行う（現地研修だけではなく、事前・事後研修、課題をもって単位認定を行う） ※不明な点は担当教員に確認の事
8. 応募資格	・流通科学部流通科学科 1～3年生 ・心身共に健康であり、持病等自己管理ができるもの ・事前研修・事後研修に <u>すべて</u> 参加できるもの ※ <u>語学力は問わない</u>
9. 事前・事後研修	<事前10回・事後研修5回>※日程は別途案内

なお、9.の事前事後研修は以下のスケジュールで行った（担当、朴教授、池田）。

事前研修		
4月24日	第1回	プログラム説明会
6月7日	第2回	研修の意義、目的、渡航までの英語学習について
6月14日	第3回	渡航手続き、保険加入、調査分担
6月21日	第4回	各班に分かれて調査、資料作成①
6月25日	第5回	海外で学ぼう！体験報告会
6月28日	第6回	各班に分かれて調査、資料作成②
7月9日	第7回	講義“Tourism Study on Guam”（前嶋准教授）
7月23日	第8回	危機管理セミナー
8月5日	第9回	渡航前の重要事項の確認

事後研修		
9月13日	第10回	調査のまとめ①
9月20日	第11回	調査のまとめ②
10月10日	第12回	プレゼンテーション資料の作成①
10月17日	第13回	プレゼンテーション資料の作成②
11月12日	第14回	成果報告会でのプレゼンテーション
11月12日	第15回	海外で学ぼう体験報告会でのプレゼンテーション

グアム大学での English Adventure Program (EAP) およびアクティブラーニングの計画は以下のとおりである。

※各班での調査は福岡県の①歴史・文化、②食料・流通チャネル、③観光と地域経済に分かれて行う。研修以外の時間に各班で集まり計画をまとめること。

10. 研修の内容	8月9日（金）	出国、福岡空港発	フィリピン航空	マニラ経由
	8月10日（土）	グアム着	大学寮、食料品生活用品の購入、商業施設見学	
	8月11日（日）	デデド朝市	見学	
	8月12日（月）	午前：オープニングセレモニー、クラス分けテスト		
		午後：キャンパスツアー		
	8月13日（火）	午前	英語授業（English Adventure Program）	
		午後	英語授業、グループ調査引率（モール、ディスカウントストア、スーパーマーケット、地場コンビニ）	
	8月14日（水）	午前	英語授業	
		午後	チャモロ先住民文化センター（地元ボランティアガイド予定） ならびにナイトマーケットの調査と見学	
	8月15日（木）	午前	英語授業	午後
8月16日（金）	午前	英語授業		
	午後	英語授業、グループ調査引率（歴史遺跡、イナラハン地区）		

	<p>8月17日（土） フィールドワーク：各班のテーマに沿って調査を行う（観光資源を中心に）</p> <p>8月18日（日） 休日</p> <p>8月19日（月） 午前：英語授業 午後：英語授業</p> <p>8月20日（火） 午前：英語授業 午後：英語授業</p> <p>8月21日（水） 午前：英語授業 午後：ボーリング・レオパレスホテル見学</p> <p>8月22日（木） 午前：英語授業 午後：体験型アクティビティ</p> <p>8月23日（金） 午前：英語授業 午後：英語授業</p> <p>8月24日（土） フィールドワーク：各班のテーマに沿って調査を行う（自然環境を中心に）</p> <p>8月25日（日） 休日</p> <p>8月26日（月） 午前：英語授業 午後：英語授業、グループ調査引率（アプラ港、商業港地区）</p> <p>8月27日（火） 午前：英語授業 午後：英語授業、グループ調査引率（海洋資源保護、ヨナ地区）</p> <p>8月28日（水） 午前：英語授業 午後：英語授業、グループ調査引率（ビジネス・行政、ハガニア地区）</p> <p>8月29日（木） 午前：英語授業 午後：閉会式、グループ調査引率（観光マーケティング施設、タモン地区）</p> <p>8月30日（金） 終日：野外活動 カルチュラルビーチデー</p> <p>8月31日（土） グアム発 フィリピン航空、マニラ経由、帰国</p> <p>8/9-8/17, 8/26-31 引率 朴 8/20-25 視察、調査 池田、マキネス</p>
11. プログラムの特徴	<p>流通科学部では、アクティブラーニング型の学習、課題解決型学習やプロジェクト型学習をカリキュラムに多く導入している。海外研修においても、語学だけでなく当学部での学びに即した調査・研究の機会を得ることを目的に、本プログラムを策定した。現地では放課後や週末を利用して実施調査を行うなど、事前に班ごとに計画したアクティブラーニングを実施する。グアム大学キャンパスからの公共交通機関がないため、本学教員の引率指導のもと、各種アクティブラーニングの安全な実施を目指す。第一週と第三週にキャンパス外での課題解決型アクティブラーニングを組み、朴教授の引率の下で実施する。マキネス講師・池田はプロジェクト研究（グローバル人材育成のための先進的事例の調査研究ならびに教育現場への還元）のため、次年度以降のプログラム展開のために現地で調査を行い、本研修の一部にも同行する。</p>
12. 引率責任者	流通科学部 教授 朴 晟材
13. 研修視察	流通科学部准教授 池田 祐子 流通科学部講師 スコット・マキネス (プロジェクト研究として)

## 〔調査報告〕

8月20日から25日にかけて、EAPを視察するとともにアクティブラーニングの実際の内容と進捗を確認した。また、グアム大学のプログラムコーディネーター2名と、次年度の研修内容について協議した。今回の調査の具体的な内容は、本学アクティブラーニングとUOGの語学授業／体験活動の調整、アクティブラーニングの進捗と課題の確認、グアム大学の学生への協力依頼、タモン地区における公共交通機関の調査である。

### 1. English Adventure Program (EAP) について

#### (1) EAPの語学の授業

UOGの語学の授業は、中村の学生11名に対し講師1名の少人数制で、ペアワークを中心に構成されており、学生の満足度は非常に高かった。参観した授業では、日本の社会問題について学生が考えをまとめている。まず文を作り、それをパラグラフに発展させ、最終的にプレゼンテーションを行うというスタイルであった。講師の話すスピードは速めで、学生は指示のおおよそは理解していたようだが、言いたいことが講師に伝わらない場面も多々見られた（少子高齢化をうまく説明できない）。次年度の事前研修ではJapan Timesの内容をまとめ英語で

コメントする課題を行い、現地授業へのスムーズな移行を図りたい。

#### (2) EAPのフィールドワーク

EAPのフィールドワークの中から、ここでは特に学生のコメントの多かったものを紹介する。

・チャモロヴィレッジ：移動はスクールバスで、露店で夕食を買い、現地の方々とダンスで交流をした。

・チャモロダンス：覚えるのが難しい。次年度の研修期間が短くなる場合は、このダンスを削ってはとの意見まで出たが、チャモロ文化体験の要であるため必要であるとの意見もあった。

・アイランドツアー：グアム島の南側を回るツアーで、グアムの史跡・遺跡の多くを訪れた（アクティブラーニングにも有用である）。

・ウォーターパーク：龍谷大学の学生たちと共同でプールに行った。授業とは異なり、午後のフィールドワークは他大学の日本人学生と一緒に行動することが多い。

#### (3) グアム大学寮

今年度、学生は経費削減のためキャンパスの寮に宿泊をした。入寮した建物は古く不衛生で、シャワーは別の棟を利用したと報告を受けた。寮の備え付け寝具はマットレスのみで、その他



の寝具は学生自ら用意した。冷蔵庫は入寮前に備え付けられたが、調理器具がないため、グアム大学に夕食（外部の弁当）を用意してもらった。弁当の内容については、学生から不満の声が聞かれた。大学付近の公共交通機関はタクシーのみで、学生は街に出るのに苦労をした。

しかし寮にも利点もあり、授業やフィールドワークの後、体育館でグアム大学の国際交流サークルの学生たちとスポーツをするなどして、英語を話す機会があった。

次年度は寮でなく、ホテル宿泊も可能性の一つとして検討する。ただしホテルの場合は、宿泊料金増に加えて通学にシャトルバス（有料）が必要となる。教員が下見を兼ねて宿泊した、グアム大学最寄りのレオパレスホテルでは以下の利点が確認された。

1. 毎日の清掃で部屋の清潔さが確保される。
2. 敷地内のコンビニ（8:45-22:45）で、生活用品や日本食（レトルト、乾麺）が安価で手に入る。日本食レストランもある。
3. 非常時は日本人スタッフが対応し、日本人医師のクリニックの紹介ができる。
4. ホテルからタモン地区への無料シャトルバスが、毎日午前7時から午後9時まで1時間に約1便、またタモン地区からホテルまでは正午から午後11時半まで1時間に約1便出ているため、学生は無料バスで繁華街でのアクティブラーニングを進めることができる。2019年8月時点での停留所は、アガニャショッピングセンター、グアムプレミアムアウトレット、K マート、タモンセントラルエアターミナル、サンドキャッスル、グアムプラザリゾート&スパとなっている。街中で赤いシャトルバスに乗り換えれば、主要観光地をほとんど網羅することになる。
5. レオパレス宿泊者は、タモン地区にあるウェスティンホテルのプールとプライベートビーチを20ドルで利用できる。コインロッカー、

タオル付きで、遊泳中の貴重品盗難の心配がない。

レオパレスホテルのコンベンションマネージャー、高野恵子氏に確認をしたところ、ホテルは2月が最もレートが高く、3月が最も低い。8月でもお盆過ぎは、ある程度レートが下がる。レオパレスホテルには数種類の宿泊棟があるが、レガシータワーは1部屋6人まで可能であり、検討する価値は十分にあると思われる。

## 2. アクティブラーニング

調査に入った時点で、学生たちは以下のアクティブラーニングの場所を訪問済みであった。

タモンビーチ、恋人岬、K マート、ペイレススーパーマーケット、マイクロネシアモール、グアムプレミアムアウトレット、アガニアの聖母マリア像、ラッテストーン公園、スペイン広場、太平洋戦争国立歴史博物館、イパオビーチ、ガンビーチ、デデドの朝市

第二週目にはアクティブラーニングの現地調査がほぼ終わったとの声が聞かれたことから、次年度の調査期間については検討の余地がある。なお、学生からデデドの朝市は全員行くべきだとの声が上がった。今年度は引率者の車に乗れる人数が限られており、半数の学生のみ訪問することができた。朝市のためタモン地区からバスツアーが組まれていることが確認されたので、オプションツアーに申し込みれば、全員が土日の朝市を訪問することは可能である。なお、学生は引率教員が不在の間、タクシーアプリの Stroll を利用していた。

なお、EPA はグアム大学主導のため問題はないが、学生だけで観光地訪問を十分な「学びの場」にすることは難しい様子が窺え、やはり適切な指導の出来る引率教員が必要であることが確認された。

### 3. グアム大学担当者との協議

Professional & International Program (PIP) の Director である Carlos R. TAITANO 氏と Outreach Coordinator の Luigi Bansil 氏に面会し、次年度に向けた協議を行った。プレースメントテストについて確認したところ、受講者が30名を超える場合はテストにより2クラスに分けられるが、いずれにせよ同じ大学の学生でクラスは構成され、他大学との合同クラスにはならない。なお、今年度はプログラム1年目のため11名でも受け入れられたが、次年度からは15名以上でなければ受け入れはできない。

中村学園大学が春休み期間中である3月も、グアム大学側は受け入れ可能である。3月の第2火曜日はグアム大学のチャーターデイ（創立記念日）で、大きなカーニバルのようなものであり、cultural dance, competition, food booth, vendors, BBQ などの催し物がある。オープンキャンパスの側面もあり、高校生も訪れる。グアム大学関係者によれば、グアム文化を学びに来る学生にとっては、この期間にかかる短期留学がベストであるという。なお、1～2週間のプログラム編成も可能である。

また、グアム大学は平日午後のフィールドワークだけでなく、土日のアクティビティも手配することができる。この場合、施設入場料だけで、大学に対して手数料は掛からない。グア

ム大学関係者（ボランティア）が同行するため学生にとっては英語の勉強にもなる。

授業内容については、午前中はビジネスクラス、午後は英語クラスなど、日本の他の大学が行っているようなアレンジについて柔軟に協力いただけるとの回答を得た。ただし、学生の語学レベルが十分ではないので、英語クラスのみが良いのではとの意見もある。

次年度は、午後のフィールドワークでは現地学生とのピクニックやパーティなど、学生同士のコミュニケーションの機会を出来るだけ増やす方向でプログラムを依頼したいと考えている。そして親しくなった学生に、週末のアクティブラーニングにも同行してもらえるとなお良い。

### 4. 今後に向けて

グローバルリンクプロジェクトは、研修期間・研修時期・宿泊先・プログラム内容など関係者で議論を重ね、今年度以上に学生満足度の高いプログラムとして継続できるように今後発展させていきたい。流通科学部らしい海外研修という位置づけで、全学共通の「英語・文化海外研修」との差別化を図り、学生が主体となって行動できるプロジェクトにすることが重要であると考えます。